

乳幼児をもつ母親の母性意識について —ハイリスクマザーの早期発見と育児支援—

久保 由美子

(愛媛大学)

〔はじめに〕

地域保健活動の場において子どもの将来の発達の遅れとメンタルヘルスに關与する環境的危険性の高いリスク児を早期に把握し、リスク児とその家族に対して早期介入を試みている。そして、気になる子どもたちの発達・行動の問題には子ども側の要因だけでなく養育環境上の問題も大きく關与していると考えられる。すなわち、「子どもとどうかかわっていいかわからない」、「子どもと遊ぶことが苦痛である」、「子どもがかわいくない」など育児不安の高い母親や母子相互作用行動が少ない母親など、家族的风险要因の中でも母親の問題が大きくかかわっている。今回は、母親の育児不安・不満感、育児満足感、夫のサポート感の3つの母性意識に注目し、ハイリスクマザーの早期発見と育児支援のあり方について検討した。

〔対象と方法〕

対象は1997～2001年に愛媛県Y市で実施している4カ月児健診、1歳6カ月児健診、3歳児健診を受診した乳幼児の母親である。方法は母性意識に関するアンケートを郵送し、健診時に回収した。母性意識に関する質問紙は小野・宮内・久保(1993)が作製したもので、「Ⅰ 育児不安・不満感」9項目、「Ⅱ 育児満足感」6項目、「Ⅲ 夫のサポート感」3項目の計18項目から構成されている。母性意識項目の応答形式は「全くない」「ほとんどない」「時々ある」「よくある」の4件法により、それぞれ1、2、3、4点を与えてその因子得点とした。

〔結 果〕

1. 対象者

郵送配布したアンケート2471のうち2162が回収され、回収率は90.7%であった。このうち内容に不備のあった資料を除いたものを対象とした結果、4カ月児586名、1歳6カ月児650名、3歳児612名、計1848名であった。

2. 母性意識因子得点

①平均と標準偏差(表1):3時点における各母性意識得点の平均について比較した結果、「Ⅰ 育児不安・不満感」では3群に有意差が認められ、4カ月時よりも1歳6カ月時、1歳6カ月時よりも3歳時の方が有意に高かった。また、「Ⅱ 育児満足感」と「Ⅲ 夫のサポート感」では4カ月時よりも1歳6カ月

時、1歳6カ月時よりも3歳時の方が有意に低かった。

②スクリーニング基準

各母性意識得点の平均から一標準偏差を加えたあるいは引いた値をスクリーニング基準とすると、「Ⅰ 育児不安・不満感」では26～28点以上、「Ⅱ 育児満足感」では18～19点以下、「Ⅲ 夫のサポート感」では7～8点以下であった。

3. 母性意識得点の継次的変化

次に、母性意識得点の継次的変化と相關關係をみるために、4カ月時、1歳6カ月時、3歳時の3時点の資料がそろった者、137名を対象に検討した。

①母性意識得点の継次的変化(表2、表3):同一対象児の4カ月時と1歳6カ月時と比較すると、1歳6カ月時では4カ月時に比べて、「Ⅰ 育児不安・不満感」が高く、「Ⅲ 夫のサポート感」が低く有意であった。また、1歳6カ月時と3歳時と比較すると、3歳時では1歳6カ月時に比べて、「Ⅰ 育児不安・不満感」が高く、「Ⅱ 育児満足感」と「Ⅲ 夫のサポート感」が有意に低かった。

②3時点における3因子の相關關係(表4):4カ月時の3因子と1歳6カ月時、3歳時における各3因子との間に高い正の相關が認められた。また、4カ月時の「Ⅰ 育児不安・不満感」は4カ月・1歳6カ月時の「Ⅱ 育児満足感」と負の相關がみられ、4カ月時の「Ⅱ 育児満足感」は4カ月・1歳6カ月・3歳時の「Ⅰ 育児不安・不満感」と負の相關、4カ月・1歳6カ月・3歳時の「Ⅲ 夫のサポート感」と正の相關がみられ、4カ月時の「Ⅲ 夫のサポート感」は4カ月・1歳6カ月・3歳時の「Ⅱ 育児満足感」と正の相關がみられた。

4. ハイリスクマザーの出現率

ハイリスクマザーのスクリーニング基準を「Ⅰ 育児不安・不満感」では28点以上、「Ⅱ 育児満足感」では18点以下、「Ⅲ 夫のサポート感」では7点以下としたところ、4カ月時におけるハイリスクマザーの出現率は「Ⅰ 育児不安・不満感」では9名(6.6%)、「Ⅱ 育児満足感」では8名(5.8%)、「Ⅲ 夫のサポート感」では7名(5.1%)であった。4カ月ハイリスクマザーの、1歳6カ月と3歳時点における出現率についてみると、「Ⅰ 育児不安・不満感」、「Ⅱ 育児満足感」では過半数の者が2時点においてハイリスクであり、「Ⅲ 夫のサポート感」では3歳時において半数がハイリスクであった。

[考 察]

子どもが4カ月時点における母親の育児不安・不満感、育児満足感、夫のサポート感の3つの母性意識が、1歳6カ月と3歳時点においても同様な傾向が認められた。また、4カ月時に育児満足感の低い者には4カ月・1歳6カ月・3歳時において育児不安・不満感が高く、夫のサポート感が低い者が多くみられた。以上のことから、育児不安・不満感の高い母親、育児満足感の低い母親、夫のサポート感の低い母親を早期に把握し早期に介入することが重要であり、乳児期からの母性意識アンケートによる評価は、ハイリスクマザーの早期発見と支援に役立つことが明らかとなった。そして、母親の育児不安・不満の軽減や育児満足感を高めるためには次のような介入方法が考えられる。①家庭訪問による指導：子どもへのかかわり方と親子あそびの具体的指導、親のニーズに応じた問題解決のための援助（育児、家族関係などの親の悩み）、②保健センターでの指導：親子教室や育児教室にける小集団の親子遊び指導、親同士の集団指導、個別指導、③集団保育の活用：親への実践的指導、親子の関係づくりである。また、効果的に行うためには、介入頻度を多くもち、3つの介入方法を組み合わせ、両親指導を行うことが必要である。さらに、地域の施設・機関の活用と連携に努め、親のニーズにあった家族・地域支援システムを確立していくことが重要である。

[結 論]

- ①母性意識が加齢に伴って変化する。育児不安・不満感は年齢とともに高く、育児満足感と夫のサポート感は低くなっていた。
- ②乳児期に育児不安・不満感が高い者、育児満足感が低い者、夫のサポート感が低い者には幼児期においても同様な傾向がみられた。
- ③乳幼児期において、育児満足感が低い者には育児不安・不満感が高い者、夫のサポート感の低い者が多かった。
- ④育児不安・不満感の高い母親、育児満足感の低い母親を早期に把握し、ハイリスク親子に対して早期介入することが必要であり、母性意識アンケートによる評価はハイリスクマザーの早期発見に役立つ。

表1 母性意識得点の平均と標準偏差

N=1848			
	4カ月	1歳6カ月	3歳
I	21.2(4.5)	22.4(4.6)	23.2(4.3)
II	21.3(2.2)	21.0(2.2)	20.4(2.2)
III	10.2(1.8)	9.6(2.1)	9.1(2.2)

表2 母性意識得点の比較—4カ月と1歳6カ月

N=137			
	4カ月	1歳6カ月	平均の差の検定
I	21.5(4.5)	22.1(4.4)	*
II	21.5(1.9)	21.3(2.1)	
III	10.4(1.6)	9.9(1.8)	**

*p<.05 **p<.01

表3 母性意識得点の比較—1歳6カ月と3歳

N=137			
	1歳6カ月	3歳	平均の差の検定
I	22.1(4.4)	22.6(4.3)	*
II	21.3(2.1)	20.6(2.2)	***
III	9.9(1.8)	9.5(2.0)	*

*p<.05 ***p<.001

表4 3時点における3因子の相関関係

N=137										
	4m I	4m II	4m III	18m I	18m II	18m III	36m I	36m II	36m III	
4m I	—									
4m II	-.255**	—								
4m III		.261**	—							
18m I	.601**	-.285**		—						
18m II	-.245**	.618**	.266**	-.298**	—					
18m III		.177*	.545**	.231**	—	—				
36m I	-.504**	-.229**		.687**	-.248**		—			
36m II		.566**	.202*	-.252**	.651**		-.410**	—		
36m III		.260**	.479**	.279**	.719**		-.180*	.308**	—	

* p<.05 ** p<.01

表5 ハイリスクマザーの出現率

N=137		
	4カ月	1歳6カ月 3歳
I リスク有(9)		6(66.7) 5(55.6)
リスク無(128)		11(8.6) 13(10.2)
II リスク有(8)		4(50.0) 5(62.5)
リスク無(129)		11(8.5) 15(11.6)
III リスク有(8)		2(25.0) 4(50.0)
リスク無(129)		11(8.5) 19(14.7)

()は%